



# Contents



23 普通高校1年生(中編) .....3



普通高校1年生(後編) ......49



25 退学 -----95

# Story

二年生に進級した。 東大ちの前に現れた新入生・トミーは ひなぎくの父親だった。 彼と再会した若葉は、 複雑な感情が 入り湿じりながらも思い返す。 5年前の、 普通高校時代を──。 「天罰かよ」 あの時一瞬だけでも そう思ったこと 今でも後悔してる。



- ■「コミックヘヴン」 2016年6月~2016年10月掲載分収録
- ●この物語はフィクションであり。
  実在の人物・団体・組織・企業等とは一切関係ありません。

























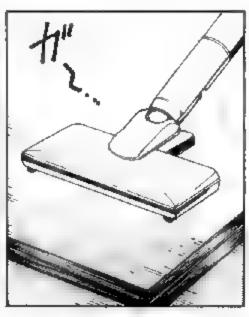






理断の なかっ た







## 普通高校1年生(中編)













流して







# 普通高校 1 年生(中編)





























## 普丽高校1年生(中編)







遅れたり しねーのにな

わかった…



思って無視の電話だと

だったか

手伝って」 「少し は

お父さん」

お願い しゃっす!

わかるでしょ」

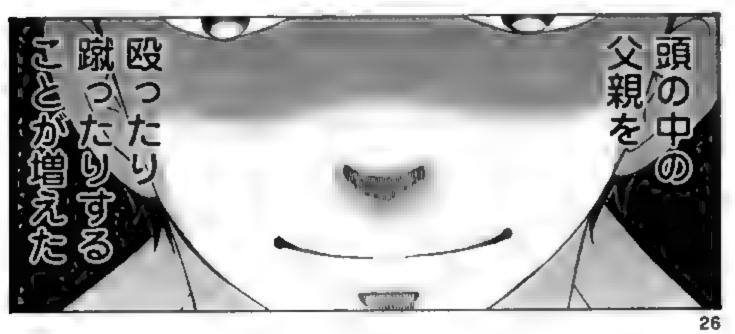
大変なの

そうだ お前: 始めたんだって?楽器 だっけか ペース? か









#### 普通高校 1 年生(中編)



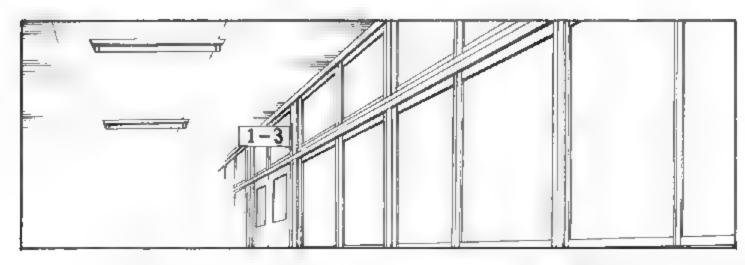






























け解ってる

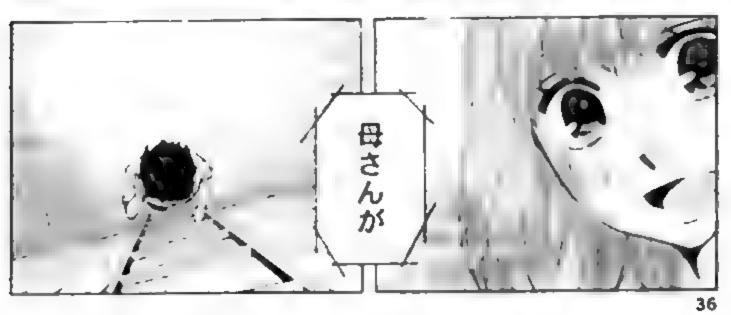
会いたい

別れてから

匠しいに行くのか











普通高校 1 年生(中編)







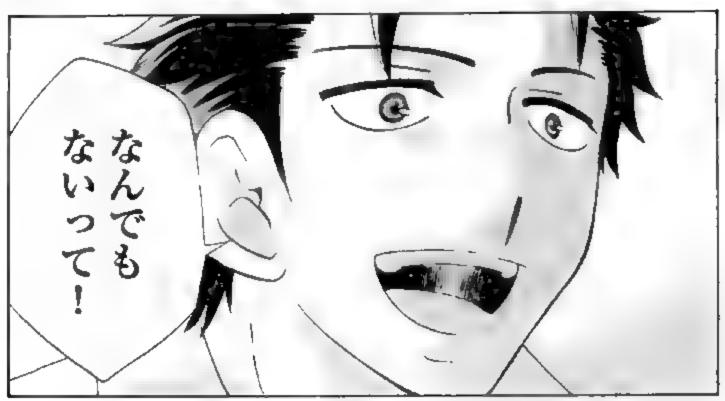
### 普通高校 1年生(中編)

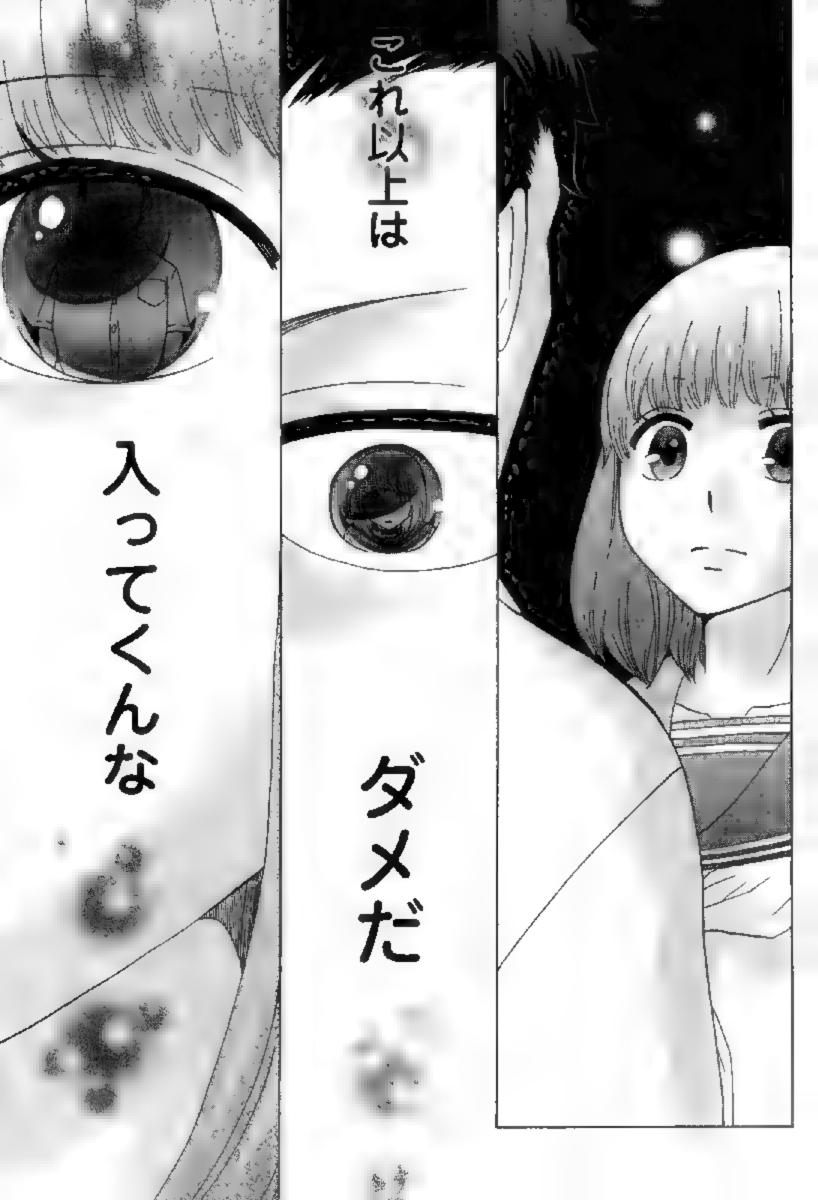




















# 中卒労働者から始める高校生活









信じて 特ってたら 気付いて くれるかも しれないし

かんな私はがあったから





してないよね? 普通高校1年生 富田家 待合室













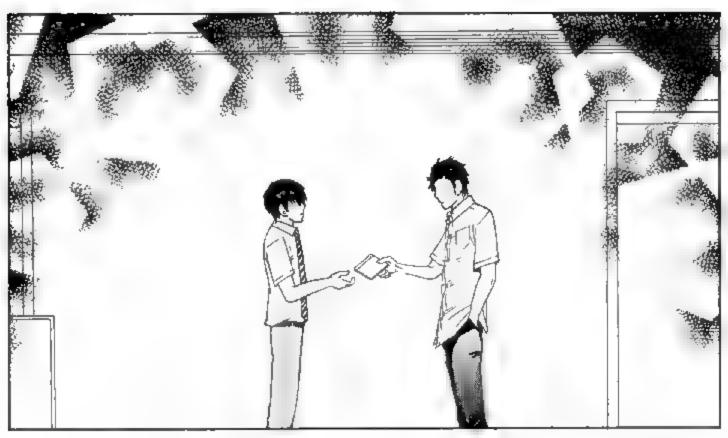












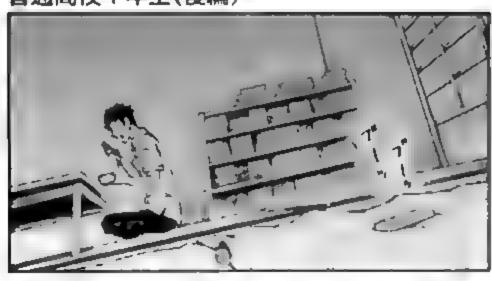




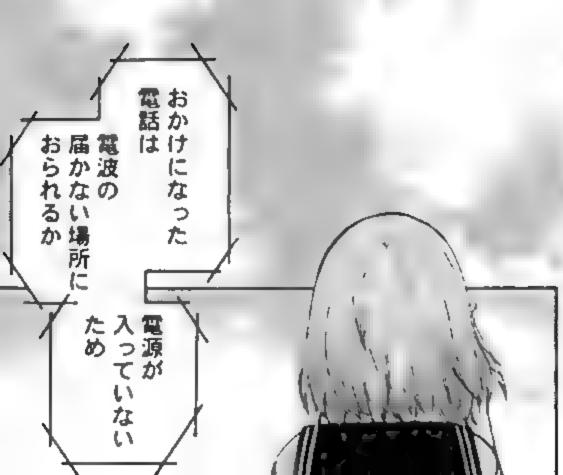


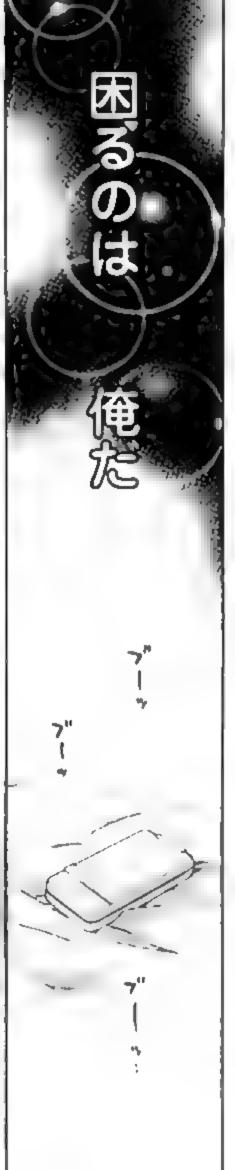




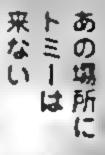












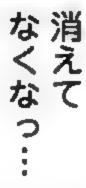
1 もう間も











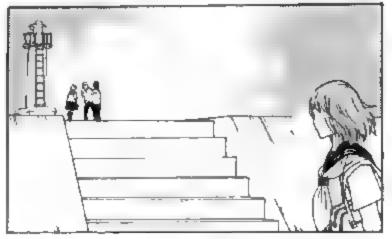


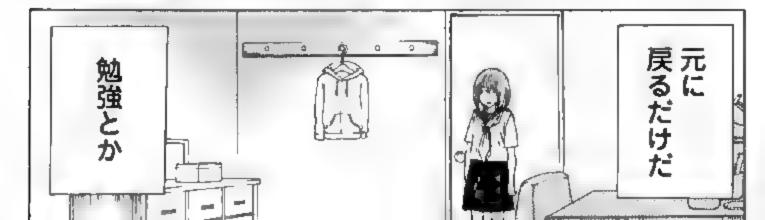




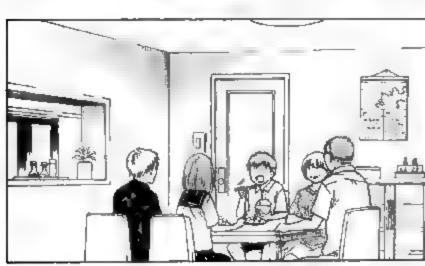
















いつも通り

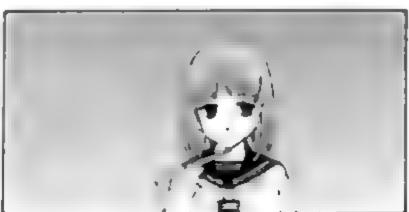
お母さんは

空気さんは

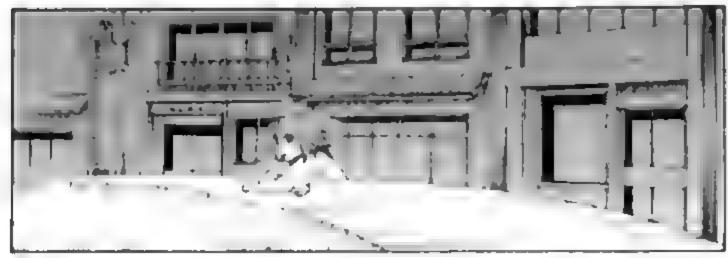
弟も



















































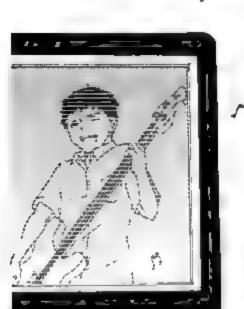


























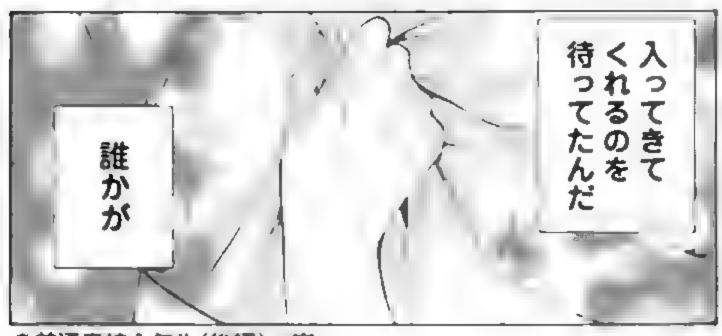












◆普通高校1年生(後編) 完

## 中卒労働者から始める高校生活

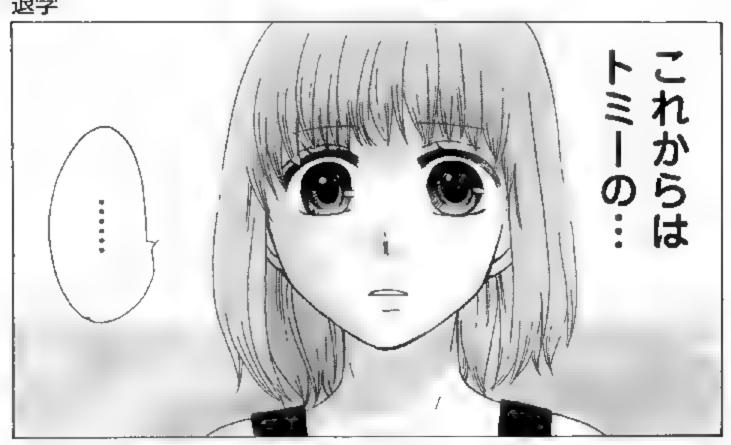


























したい

して

言いたい











































悪人:

おかけにおいるかんなった電話はおいなった電話は

























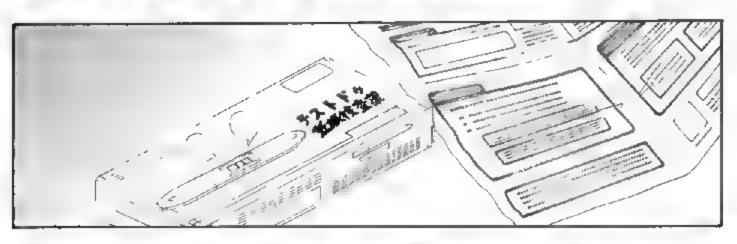


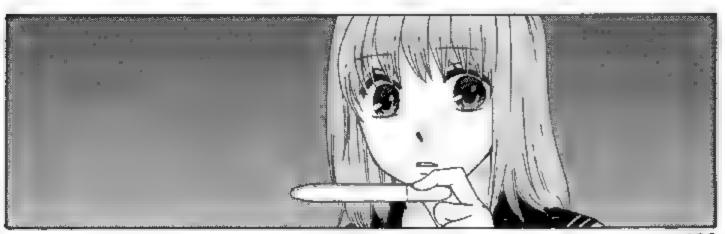
















話したくない え? 誰が殺すの? 怖い 私? じゃあ 殺すの? 怖い 私が?



天罰?

当たるよ



















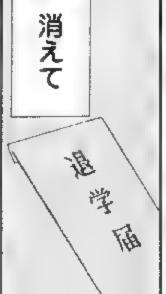


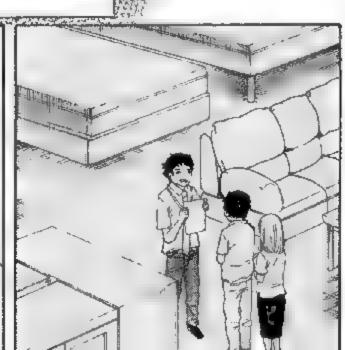




消えて









## 中卒労働者から始める高校生活





















そして「通信制高校だけでも卒業できる?」と問われれば 私はできました。という答えになります。

1巻の作品中でも描いた通り、 途中でやめてしまう人ももちろんいると思います。 私自身も1度本気で学校をやめたいなと思った時期がありました。

そう思ったのは4年生の時だったので 今思い返すとあと数ヶ月通えば高卒なのにそこで投げる気か、 と当時の自分に思いますが(笑)

その時は本当に学校に通う事に意味を感じなかったんですね。

3年生の途中で某雑誌に漫画を投稿して、担当編集がつきました。 勤め先ではアルバイトから準社員というものに昇格させてもらっていて 働いて家に帰ったら漫画のネームを描いて、描き上がったら 編集部に郵送して(当時家にFAXがなかったので…) 送った後はいつ東京から電話がかかってくるかって、そればかり考えて。

レポートも授業もやってる暇ないよ!って思っちゃったんです。

でも学校には会いたいと思う人がたくさん出来ていたし、 同級生に伯父もいたし、怒られそうだし…(笑) やっぱりここでやめるのは…と思い留まりました。

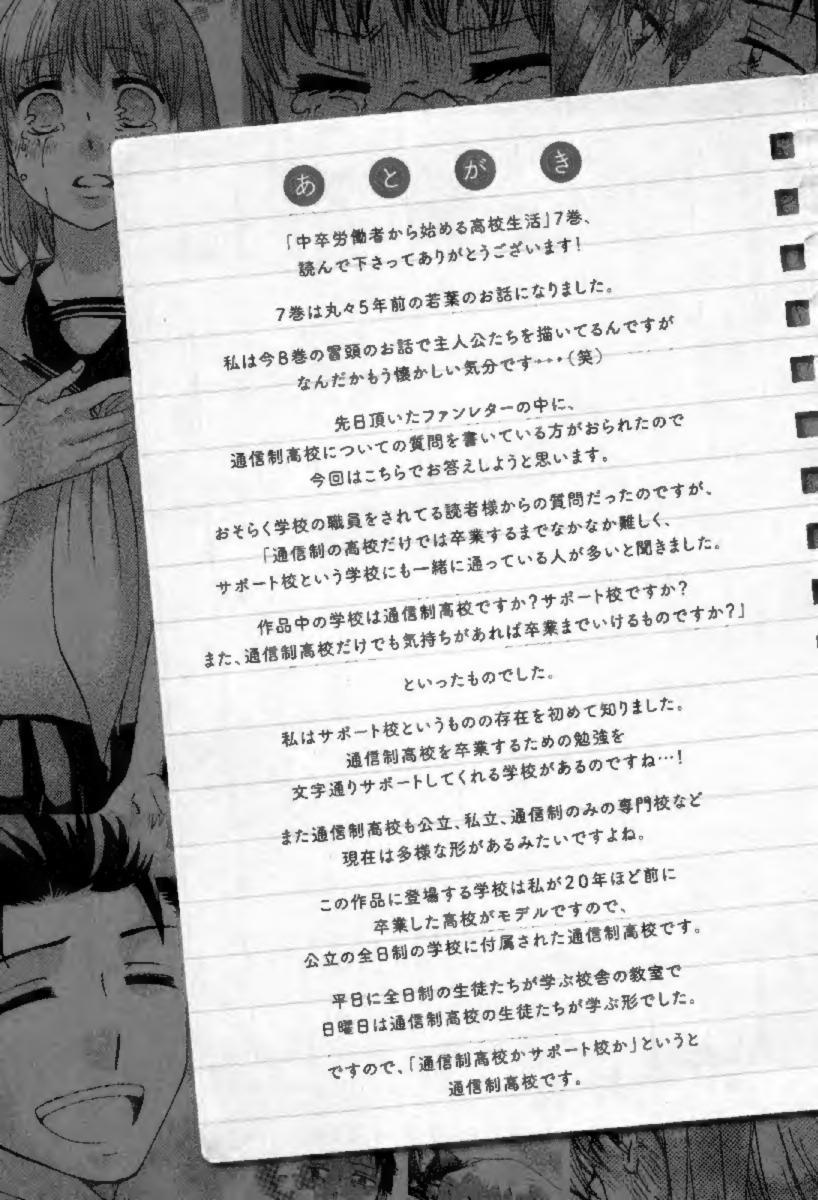
もちろん今はその時思い留まって良かったなあと思います。 意味はあったのだと。

それぞれすべての人に事情がありますし、運もあると思います。 私も運良くいい友達がいなかったらやめてしまったかも。

今はたくさんやり方があるみたいなので これから学ぶ方々、皆さまそれぞれ合うやり方に出会えるよう願っております。

次巻からはまた舞台が通信制高校に戻ります。 遠くはありますがキラキラした思い出を引っ張り出して 描いていけたらと思いますのでお付き合いよろしくお願いします。

佐々木ミノル



## 中卒労働者から 始める高校生活7

佐々木ミノル

日本文芸社